

海外からの受入れに係る結核対策について

感染制御部

岡山大学病院で受け入れる海外からの研修者については、以下の通り対応するものとする。

1. 患者との接触がある場合(診療およびケア)

*受入時の必要確項目(現地で実施)

- 胸部 X 線検査 (現地の医師の診断書) (実習開始日から 3 か月以内)
- 結核の病歴: 既往歴、治療歴の有無
- I G R A (Q F T or T-spot)

(1) 胸部 X 線検査(医師による証明必要)

- ・異常なし ⇒ 問題なし
- ・陰影あり ⇒ 活動性結核の否定が必要(要診断書)
*ビザ申請のために実習開始日の3か月より以前に X 線撮影している場合、
3か月以内に再度撮影し、医師による証明が必要
受入れ元が確認すること

(2) 結核の病歴

- ・なし ⇒ 問題なし
- ・既往歴あり ⇒ 治療歴の確認、活動性結核の否定が必要(要診断書)

(3) IGRA(QFT or T-spot)

原則: 現地で実施

(a) 現地で実施した場合

- ・陰性 ⇒ 問題なし
- ・陽性 ⇒ 要精査
〈IGRA 陽性時の精査〉
 - ① 胸部 CT
 - ② 喀痰抗酸菌塗沫検査(3回) (結核 PCR1回)

医師による診断書が必要

(b) 現地で実施不可能な場合

- ・胸部 X 線検査はダブル検査
画像データ(DICOM 形式のみ)を送付し、放射線科で診断
DICOM 形式が利用できない場合は、胸部 X 線検査のフィルム(実物)
を送付し、放射線科で診断
- ・日本に到着後に IGRA 実施(結果判明までは見学のみ)
陽性時には前記の IGRA 陽性時の精査を実施

2. 患者との接触がない場合

*受入時の必要確認項目(現地で実施)

(検査項目)

●胸部 X 線検査(実習開始日から3か月以内)

●結核の病歴:既往歴、治療歴の有無

(1) 胸部エックス線検査(医師による証明必要)

・異常なし ⇒ 問題なし

・陰影あり ⇒ 活動性結核の否定が必要(要診断書)

(2) 結核の病歴

・なし ⇒ 問題なし

・既往歴あり ⇒ 治療歴の確認、活動性結核の否定が必要(要診断書)

2016年12月26日作成	
2017年2月14日改訂	
2017年10月11日改訂	
2019年7月5日改訂	書式変更のみ。内容変更は確認のみ。